

観光・スポーツ・文化・まちづくり：観光関連産業（小売、娯楽、飲食店）

その為に活用できる地域特性（＝近隣地域、類似自治体と比較して優位なもの）

種別	宜野湾市における地域特性	種別	宜野湾市における地域特性
産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> 第3次産業が8割を占める 卸売業・小売業売上額県内3位 商業施設の徒歩圏人口カバー率は約96% 個性的な飲食店が多く立地 西海岸を中心にホテル集積 	人材	<ul style="list-style-type: none"> 近隣、市内に教育機関が立地 大学：琉球大学、沖縄国際大学 専修学校：SOLA学園（ホテルマネジメント学科） 宜野湾マリン支援センター：海をテーマにした目的利用型施設
観光資源	<ul style="list-style-type: none"> 西海岸地域の街並み（サンセット、ヨットハーバー、ビーチ等） 年間を通し開催する多彩なイベント プロ野球キャンプ誘致等スポーツコンベンション 近海の珊瑚礁 ぎのわんはごろも伝説 	情報	
特産物	<ul style="list-style-type: none"> 大山田イモ 宜野湾泡盛「青ひと雫」 紅型 	インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 空港・港からアクセス性が高い 主要幹線道路が通り本島南部と北部を結ぶ交通上重要な位置 MICE施設 宜野湾港マリーナ
技術		自然環境（観光資源除く）	<ul style="list-style-type: none"> 西海岸や湧水などの水辺空間 大山田イモ畑 国指定文化財「喜友名泉（チュンナーガー）をはじめとする湧水群 西普天間住宅地区の斜面緑地

第四次産業革命関連：情報通信業

その為に活用できる地域特性（＝近隣地域、類似自治体と比較して優位なもの）

種別	宜野湾市における地域特性	種別	宜野湾市における地域特性
産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> 西海岸地域を中心に関連産業が集積。事業所数は県内3位 	人材	<ul style="list-style-type: none"> 近隣、市内に教育機関が立地 大学：琉球大学、沖縄国際大学 高校：宜野湾高校（情報処理科） 中部商業高校（情報ビジネス科） 専修学校：パシフィックテクノカレッジ学院 G-waveにおけるインキュベーション育成、市民や企業のIT知識・技術の向上支援 市内立地企業が実施するプログラミングスクール等の取り組み
観光資源	<ul style="list-style-type: none"> G-waveコワーキングスペース 	情報	
特産物		インフラ	<ul style="list-style-type: none"> G-Wave
技術		自然環境 (観光資源除く)	

SWOT分析（宜野湾市）

■ 外部環境

- ・ 住民、観光客、協力自治体、連携企業
- ・ P：政治的要因、E：経済的要因、S：社会的要因、T：技術的要因

機会

【観光関連産業】

- ・ 県内最大のコンベンション施設である沖縄コンベンションセンターが立地。
- ・ MICE関連の催事別・市町村別参加者数は県内上位に。イベント型の開催が中心で参加者数を伸ばしている。
＜沖縄県MICE開催実態調査事業報告書＞
- ・ 各種スポーツ施設や宜野湾港マリーナなど観光コンテンツを創出するインフラがある。
- ・ アンティーク家具や雑貨、南米等の飲食店など特徴のある個店の集積、まちなみ。

【情報通信産業】

- ・ 西海岸地域を中心に関連産業が集積。事業所数、従業者数ともに県内3位＜RESAS＞
- ・ 大学や専門学校が立地。若者が集まるまち。

脅威

【観光関連産業】

- ・ 来訪者が市内に滞在する時間は短い。
- ・ イベント開催時における交通渋滞の発生、駐車場の不足
- ・ 中城湾港マリンタウン地区におけるMICE施設計画
- ・ 宜野湾市におけるMICE開催は、Convention、Eventが中心でIncentive Travelでは選ばれない傾向
＜沖縄県MICE開催実態調査＞

【情報通信産業】

- ・ 近年では、事業所数、従業者数の減少も見られる一方で、浦添市で増加の傾向が伺える＜RESAS＞
- ・ 沖縄県全体の情報通信業全体で労働生産性が低く、特に情報サービス業等の労働生産性の低さが顕著
＜おきなわsmart産業ビジョン＞

SWOT分析（宜野湾市）

■ 内部環境

- ・ 宜野湾市
- ・ 地域特性

強み

【観光関連産業】

- ・ コンベンションセンターや海浜公園で年間を通して開催される多彩なイベントにより、イベント来訪者は例年20万人前後
- ・ 市内宿泊者数は26～28万人ほどで推移。近年は新たなホテル進出もあり、集客に期待。
＜宜野湾市観光スポーツ課＞
- ・ 卸売業・小売業の年間商品販売額県内3位<RESAS>
- ・ 商業施設の徒歩圏人口カバー率は約96%
- ・ バス停留所の徒歩利用圏内人口割合は約74%
- ・ 市民意識調査より、日用品や食料品の買い物等で市内利用の回答が5割超。日常生活の利便性が確保されている状況<都市マス>

【情報通信産業】

- ・ 西海岸地域を中心に関連産業が集積。事業所数・従業員数は県内3位<RESAS>
- ・ Gwaveが立地
- ・ 人口集中地区（DID）は年々拡大傾向にあり、1990年78.7%→2015年94.2%と市街化区域のほぼ全域が人口集中地区<都市マス>

弱み

【観光関連産業】

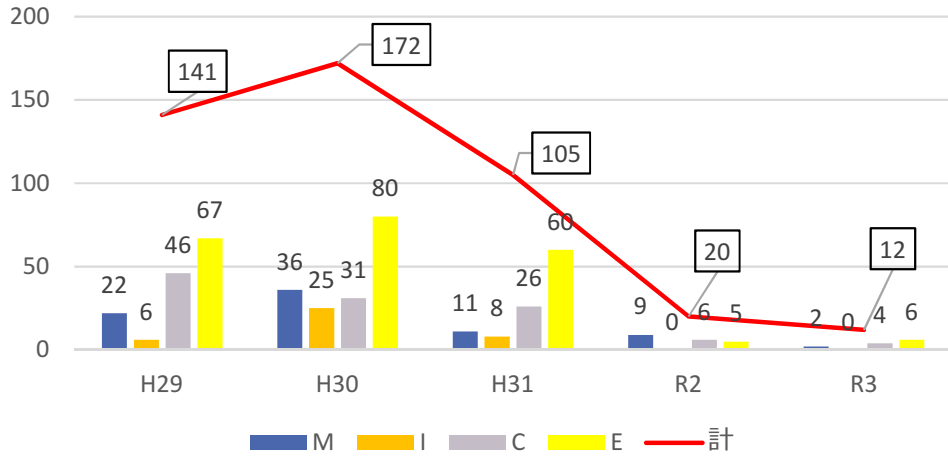
- ・ コロナの影響により来訪者数、宿泊者数に大幅な落ち込み
＜宜野湾市観光スポーツ課＞
- ・ 大型商業施設の立地に伴い、市内事業所数は減少傾向にあったが、近年持ち直しの状況も伺える。
＜経済センサス＞
- ・ イベント開催型の観光施策
- ・ ドーナツ状の市街地形成による非効率な移動、車依存社会

【情報通信産業】

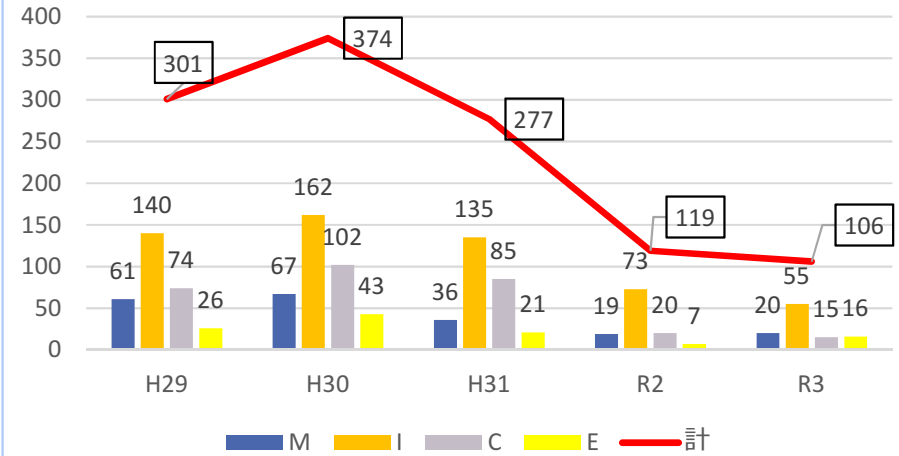
- ・ Gwaveを卒業した成長企業が市外へ移転するケースも見られる

【観光】市町村別MICE開催件数

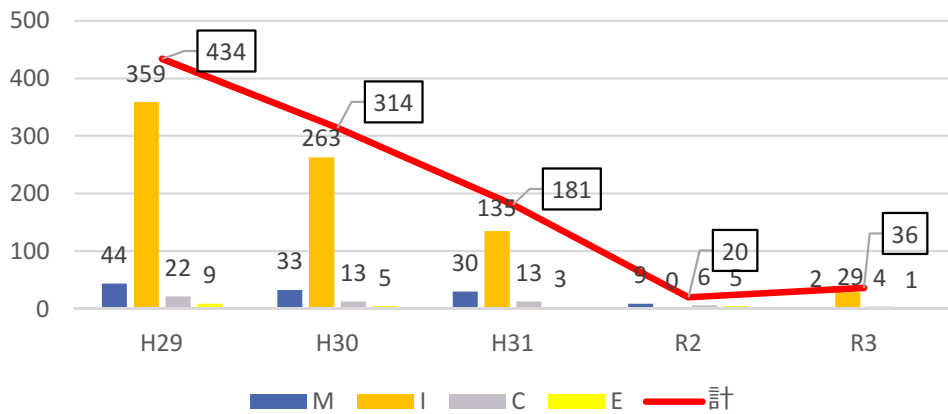
宜野湾市



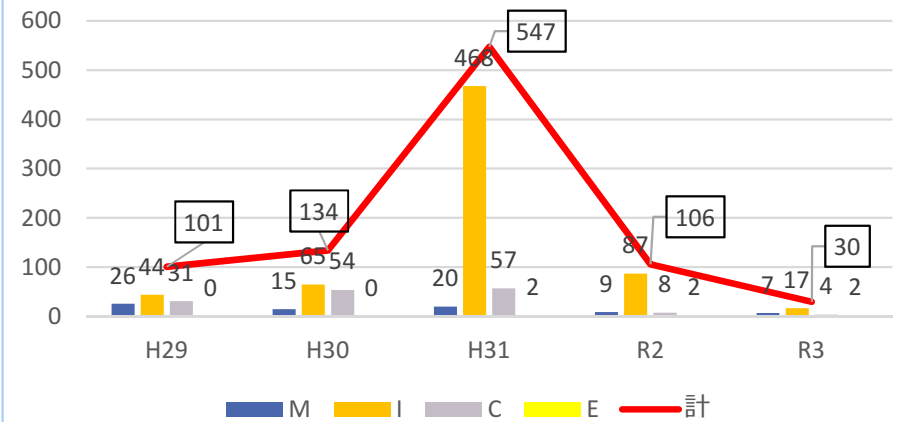
那覇市



名護市



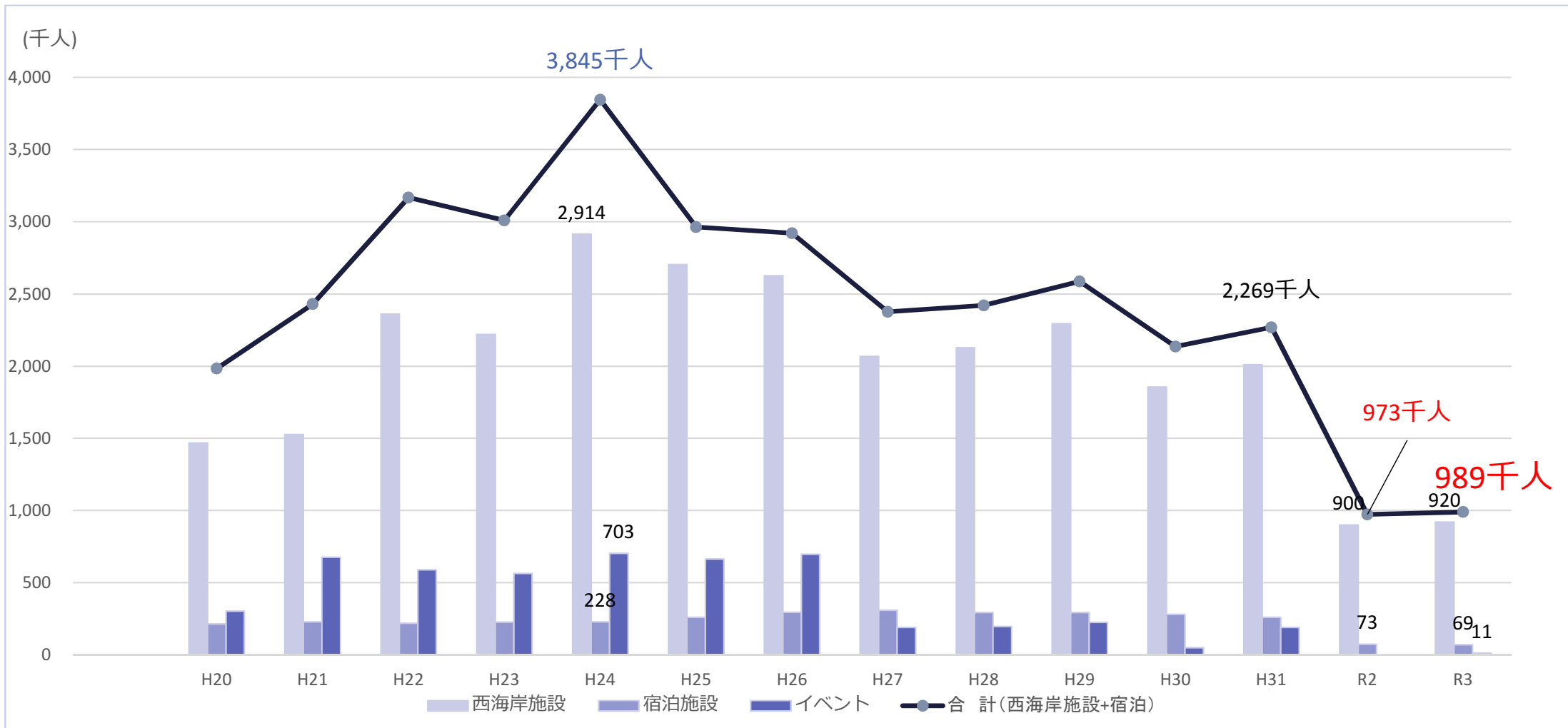
恩納村



沖縄県MICE開催実態調査事業報告書よりデータ引用

- ・ 宜野湾市におけるMICEはコンベンションセンターの立地によりE（展示・イベント）によるものが中心。
- ・ 名護市や恩納村の北部地域では、I（インセンティブトラベル）の割合が大きい。
- ・ いずれの地域も、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。

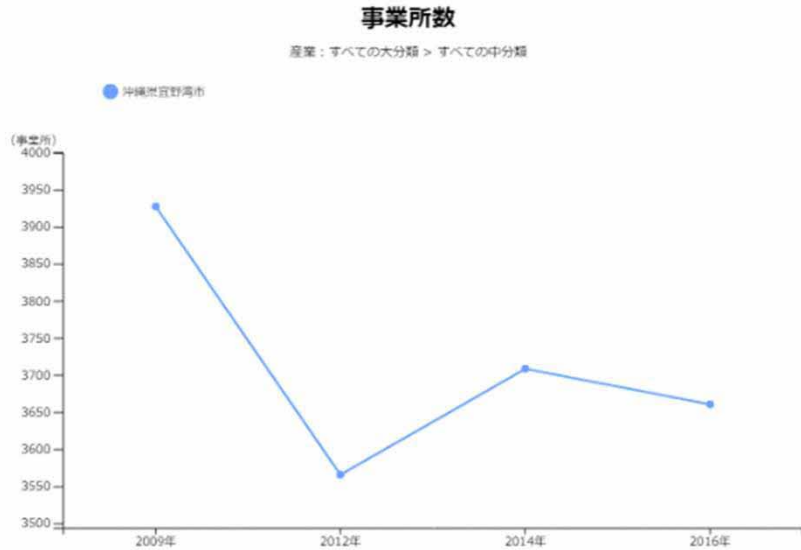
【観光】 宜野湾西海岸地域 入域者数推移グラフ



宜野湾市観光スポーツ課

- ・ R2年度に引続き、新型コロナウイルスの影響によりイベントを始めとする多くの制限がかかった事で大幅な落ち込みが見られたが、有観客によるプロ野球キャンプ実施等、ガイドラインに沿ったイベントの開催もあった。
- ・ 制限がかかる中で開催可能なイベント等を取捨選択し、下げ幅を最小限に止める必要がある。アフターコロナを見据えた展開を検討する。

【観光】事業所数



■年間商品販売額及び商店数の推移（小売業）



出典：「商業統計調査」「経済センサス」（経済産業省）

総務省「経済センサス－基礎調査」
 総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

宜野湾市都市計画マスタープラン2021.12月改定

【表2-2】

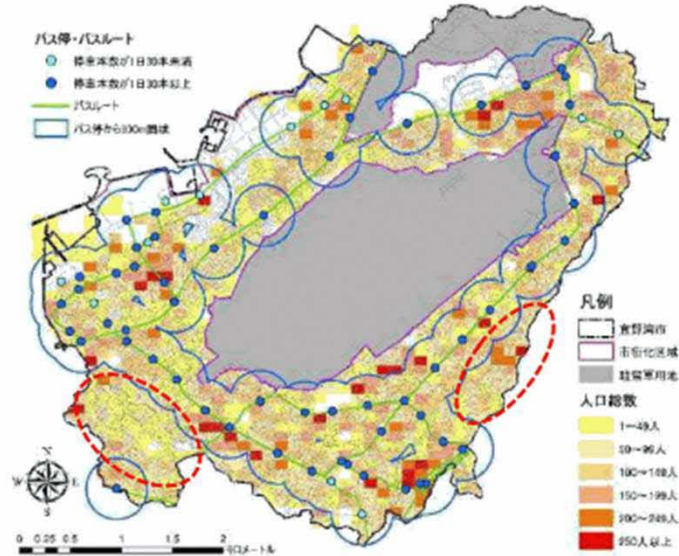
市町村	総数 (存続・新規把握)	存続事業所	総数に占める 割合(%)	新規把握 事業所	総数に占める 割合(%)	休業事業所	廃業事業所	
沖縄県合計	78,658	62,677	79.7	15,981	20.3	1,113	10,883	
市部	那覇市	22,135	16,389	74.0	5,746	26.0	233	3,914
	宜野湾市	4,664	3,518	75.4	1,146	24.6	57	736
	石垣市	3,770	2,948	78.2	822	21.8	46	562
	浦添市	6,475	5,179	80.0	1,296	20.0	61	615
	名護市	3,490	2,741	78.5	749	21.5	55	455
	糸満市	2,674	2,247	84.0	427	16.0	47	366
	沖縄市	6,296	5,250	83.4	1,046	16.6	113	954
	豊見城市	2,718	1,986	73.1	732	26.9	63	401
	うるま市	5,012	4,496	89.7	516	10.3	48	445
	宮古島市	3,784	2,949	77.9	835	22.1	73	387
	南城市	1,638	1,342	81.9	296	18.1	19	186

令和元年経済センサス基礎調査（甲調査確報）__沖縄県結果の概要

- ・大型商業施設等の立地に伴い、市内事業所数は減少傾向にあったが、R元年度経済センサス基礎調査より、増加に転じており、全体の約1/4が新規把握事業所

【観光】にぎわいと魅力の維持・創出

■ 100mメッシュ人口分布（2016年）とバス停の徒歩利用圏域（800m）の重ね図

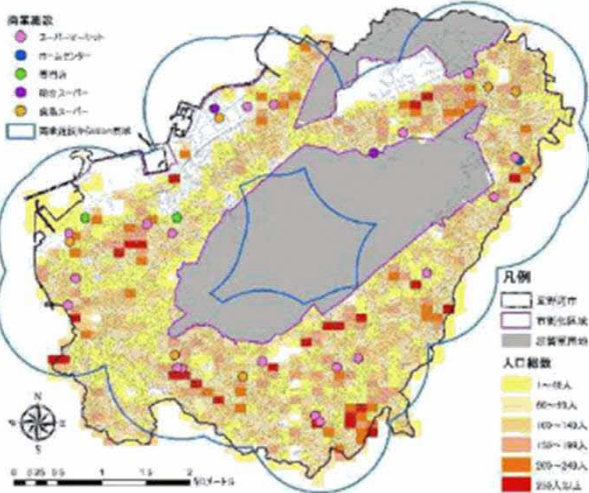


- ☑ 本市には、高速バスを含む5つの民間事業者により路線バスが運行されており、停留所の8割以上が1日30本以上運行しています。
- ☑ バス停留所の徒歩利用圏（半径300mの範囲）をみると、市内の広域をカバーしており、バス停の徒歩圏内人口割合は約74%となっています。
- ☑ 一方、嘉数や長田の一部では、バス停の徒歩利用圏域から外れる地区も存在しています。

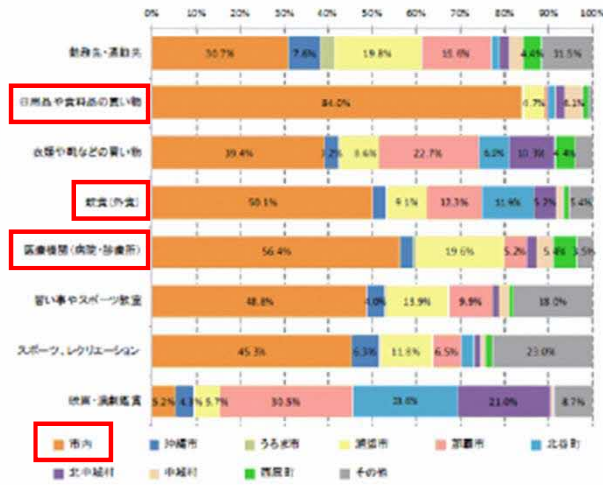
・バス停留所の徒歩利用圏（半径300mの範囲）をみると、市内の広域をカバーしており、バス停の徒歩圏内人口割合は約74%となっている。

出典：「メッシュ統計地図データ」（株式会社ゼンリン）及び市内バス停（平成30年10月時点）

■ 100mメッシュ人口分布（2016年）と商業施設の徒歩利用圏域（800m）の重ね図



■ 市民意識調査 ～日常の行動圏～



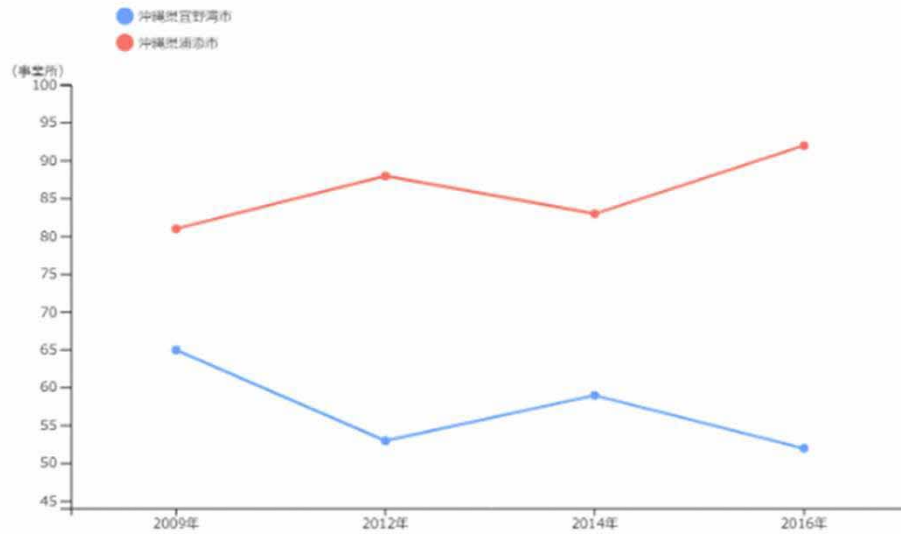
出典：「第四次宜野湾市総合計画前期基本計画評価報告書（令和2年3月）」

・商業施設の徒歩圏人口カバー率は約96%
 ・市民意識調査より、日用品や食料品の買い物等で市内利用の回答が5割超
 ・日常生活の利便性が確保されている状況

【情報通信】 事業所数、従業員数

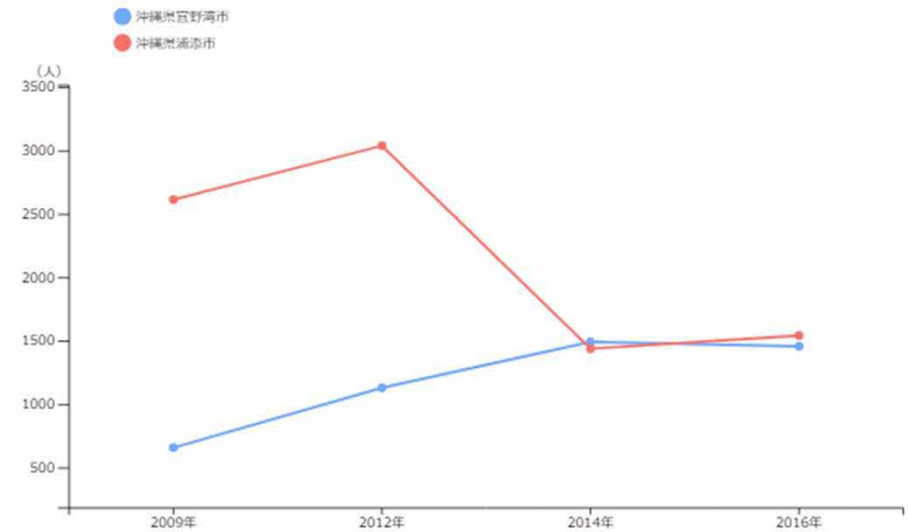
事業所数

産業：情報通信業 > すべての中分類



従業員数（事業所単位）

産業：情報通信業 > すべての中分類

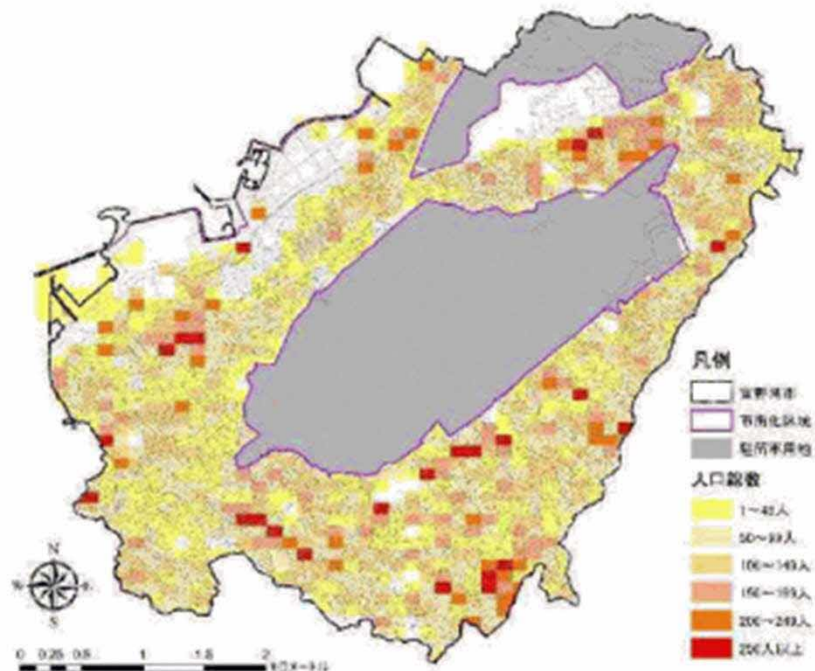


総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

- ・近年では、事業所数、従業員数が減少する傾向も見られる一方で、浦添市では増加の傾向に。

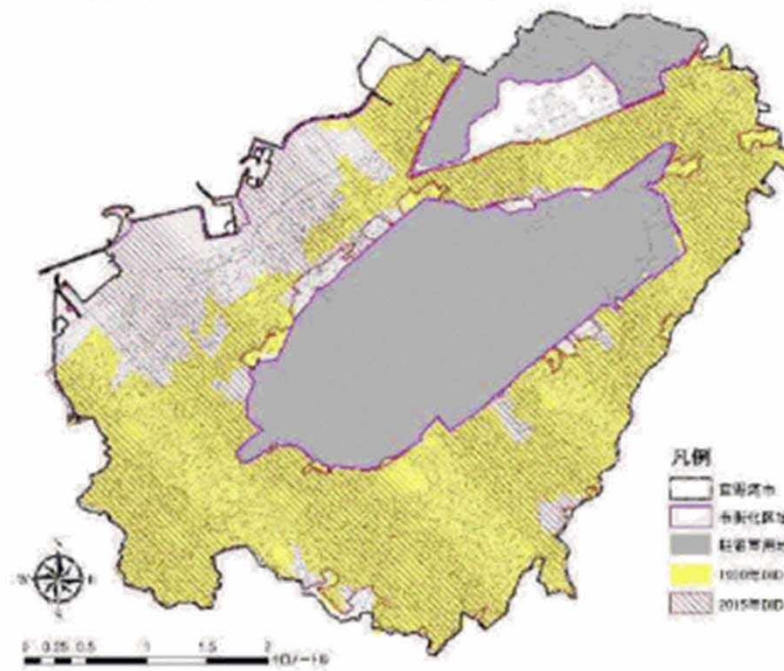
【情報通信】人口集中地区の推移

■ 100mメッシュ人口分布（2016年）



出典：「メッシュ統計地図データ」(株式会社ゼンリン)

■ 人口集中地区（DID）の推移



出典：「国土数値情報 人口集中地区データ」(国土交通省)

- ☑ 市の中央部に普天間飛行場が位置しており、ドーナツ状に市街地が形成されています。
- ☑ 利用可能な土地が限られているため、軍用地や西海岸エリアの産業地を除く市域全体に人口が分布しており、1haあたり40人以上の人口密度を有し、かつ、人口が5,000人以上となる範囲を示す人口集中地区（DID）も年々拡大傾向にあります。市街化区域に対する比率をみると、1990年が78.7%であったのに対し、2015年では94.2%と市街化区域のほぼ全域が人口集中地区となっています。

宜野湾市都市計画マスタープラン2021.12月改定

・市街化区域のほぼ全域が人口集中地区（DID）であることも、宜野湾市の強みの一つ

【情報通信】 情報通信業全体の労働生産性

図表 10 平成 28 年経済センサスにおける沖縄の情報通信業の労働生産性

業種	沖縄県内に本社を置く企業等の集計 (企業等に関する集計)		沖縄県外に本社を置く企業の 県内事業所を含めた集計 (事業所に関する集計)	
	従業者一人あたり 付加価値額 (労働生産性)	順位	従業者一人あたり 付加価値額 (労働生産性)	順位
G 情報通信業全体	597 万円	28 位	539 万円	47 位
G1(うち)通信業等	875 万円	10 位	802 万円	29 位
G2(うち)情報サービス業等*	404 万円	44 位	389 万円	46 位

*ソフトウェア開発業を含む

出典：「平成 28 年 経済センサス 活動調査」 経済産業省・総務省

図表 11 平成 28 年経済センサスにおける沖縄の情報通信業の労働生産性の要素

業種	要素	従業者 1 人あたり 付加価値額 (労働生産性)		売上額		費用総額		給与総額	
		金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位
G 情報通信業全体		597 万円	28 位	2,084 万円	8 位	1,843 万円	9 位	345 万円	44 位
G1(うち)通信業等		875 万円	10 位	3,594 万円	6 位	3,109 万円	6 位	368 万円	40 位
G2(うち)情報サービス業等		404 万円	44 位	1,032 万円	44 位	962 万円	44 位	329 万円	43 位

出典：「平成 28 年 経済センサス 活動調査」 経済産業省・総務省
本表は沖縄県内に本社を置く企業等の集計 (企業等に関する集計) による

おきなわsmart産業ビジョン

- ・ 情報サービス業等における労働生産性の低さが顕著
- ・ 労働生産性を高めるためには売上額と給与総額をいかに高めていくかが重要。